

厚生病院だより

ほほえみ

広報誌

第74号

2020 10. 1

Topics

- 部門紹介
「周術期管理チーム」
- 献血について
- しょうとうだい 床頭台 (TV・冷蔵庫) 定額制について
- 認定看護師の活躍
「乳がん看護認定看護師」



写真提供：見留 豊久

基本理念

信頼され、心が通う地域医療



桐生厚生総合病院

(編集 院外広報編集委員会)

〒376-0024 群馬県桐生市織姫町6番3号
TEL:0277-44-7171(代) FAX:0277-44-7170
URL: <https://www.kosei-hospital.kiryu.gunma.jp/>



部門紹介

周術期管理チーム

Perioperative Care Team



周術期管理チーム看護師

とよおかまさゆき さとうさちよ くわばらえつこ ひろせえいいち
左から、豊岡正幸 佐藤祥代 栗原悦子 廣瀬栄一
たかくさぎあや せやあきこ
高草木綾 瀬谷亜希子

手術に関わる医療スタッフは「**周術期管理チーム**」という資格取得をめざして活動しています。この資格は、周術期（手術前・手術中・手術後）における専門的な教育を受けたことを証明するものです。現在は、看護師6名、臨床工学技士1名、薬剤師2名が資格を取得しています。

みなさんは、“術前外来”という言葉をご存じですか？



術前外来の様子

術前外来とは、手術後の回復を促進させることを目的とし、患者さんが安心して手術を受けていただけるよう準備する外来です。当院では2015年に手術室看護師による術前外来を開設しました。具体的には、患者さんやご家族と面談しながら手術や麻酔の説明を行います。手術に関する情報収集として、関節の動く範囲（可動域）、アレルギーの有無、皮膚の状態、嗜好品、下肢静脈瘤の有無などを確認します。また、禁煙指導や術前呼吸訓練、皮膚の保湿、セルフ口腔ケア、術後の疼痛コントロールといった説明を行うことで、手術後の回復

意欲を高めていただきます。手術に向けて心身の準備を整え、患者さんの心配や苦痛を最小限にできるようにお話をうかがうことで、より良い状態で手術が迎えられ、術後の早期回復につながるよう援助しています。

手術当日は多職種で一つの手術チームを作り、それぞれの専門性を発揮し、職種間で連携を図りながら安全な医療の提供につなげています。そして、手術を受ける患者さんの麻酔計画については、麻酔科医師を中心に手術室看護師、臨床工学技士、薬剤部で話し合って情報共有しています。看護については、術前からの情報をもとに術中援助や術後の早期回復に向けて話し合い、患者さん一人ひとりに合わせた周術期看護を提供します。



ミーティングの様子

現在の術前外来は、呼吸器外科、泌尿器科、産婦人科、整形外科、歯科口腔外科、乳腺外科の患者さんを対象に行っています。今後は診療科を増やし、多くの患者さんに術前から関わり他職種との連携を強化し多角的に介入することで、より安全で、安心できる医療をみなさんに提供できるように活動していきたいと考えています。

～ 臨床工学技士の役割 ～

手術室には麻酔器・電気メスをはじめとする多種多様な医療機器があります。医療の進歩に伴い、より高度で専門性を必要とする医療機器が増えており、医師をはじめ看護師にも機器を扱う負担が増えています。

当院におきましても、2008年に臨床工学科が発足し、2014年11月から手術室へ専従の臨床工学技士が配置され、主に麻酔器の始業点検・管理と内視鏡手術機器・ナビゲーション装置の準備・操作などの医療機器の保守・点検を行い、安全な手術環境の整備に努めております。



「周術期管理チーム」認定制度の中で、看護師、薬剤師の認定試験開始後2018年から臨床工学技士の認定試験が開始されました。

手術室における臨床工学技士の役割は、専門職の立場から医療機器の安全性・効率性を向上させ、円滑に業務を遂行することです。医療機器に関する不具合発生時、早急に対応することで手術への影響を最小限に抑えることができます。

患者さん中心の視点で、安全を第一に専門性を発揮することが周術期管理チームの役割と考えています。



くりはら てるお
栗原 照夫

～ 薬剤師の役割 ～

以前から薬剤師が手術室で麻薬などの医薬品管理業務を行っていましたが、2018年4月から病棟業務の拡大として周術期の薬剤師として関わるようになりました。その結果、当院では、今年4月に2名の「周術期管理チーム薬剤師」が認定されました。薬剤部としても予定手術が安全に行えるように取り組んでいます。

手術が決定すると、薬局窓口で患者さんと面談し、お薬手帳の確認を行っています。手術前に中止すべき薬やサプリメントがあれば主治医に報告します。看護師は患者さんに医師の中止薬などの指示について説明を行います。患者さんが入院されると、再度、病棟薬剤師が最新の処方薬や指示通り中止すべき



薬が中止されているか確認します。この情報をもとに、主治医・麻酔科医・手術室スタッフと話し合い、安全な手術に向けて適切な薬剤使用ができるように提案を行っています。また、手術中に開始された薬剤が安全に病棟で使用できるように病棟薬剤師と情報共有しています。さらに、最新の医薬品情報や適切な使用方法を医師・看護師・臨床工学技士などのスタッフに提供し、患者さんが安心して手術が受けられるよう活動しています。



こしま つよし こだま ひろし
小島 強 児玉 博



エイッチ

オータン

けん けつ 献血が不足しています



エピリン

ビービー

生きるために欠かせない血液、人工的には造れません。治療や救命に毎日毎日、輸血用血液製剤は使われていますが、長期間の保存もきかないのです。いざという時の命を守るため、健康な皆さんから「献血」により無償で血液を提供していただき、この血液製剤を十分に確保しておかなくてはなりません。

いま、全国的に血液製剤が不足しています。新型コロナウイルスの感染拡大、新しい生活様式としての自粛などで「献血バス」の協力者がいなくなったり、時にはバス運行も中止になり、3月頃から献血者が減りました。関東甲信越では1日5,000人の献血協力が必要！特に400mL献血と成分献血が必要量を下回っています。

**献血は、不要不急の外出ではありません。
ぜひご協力ください。**

日本赤十字社 群馬県赤十字血液センター

<https://www.bs.jrc.or.jp/ktks/gunma/index.html>



※当院にも定期的に献血バスが来ています。



チッチ

献血キャラクター

けんけつちゃん

献血キャラクター“けんけつちゃん”は、献血への協力を呼びかけるため「たすけアイランド」からやってきた愛の妖精。リーダーはチッチです。

しょうとうだい

床頭台(TV・冷蔵庫)利用料の1日定額制サービスを開始しました

令和2年9月1日から入院患者さんの利便性の向上等を目的に、^{しょうとうだい}床頭台(TV・冷蔵庫)を制限なくご利用いただける1日定額制(日額/300円^(税抜))のサービスを実施しております。

本サービスの申し込みにつきましては、1階12番窓口(入院セット受付窓口)でお申込みいただきますようお願いいたします。

※病衣・おむつ等も併せて申し込みます。

※緊急入院の場合等1階の窓口申し込みが困難な患者さんは看護師にお申し出ください。

※従前からご利用いただいておりますプリペイド(TV)カードは廃止となりますので、1階12番窓口付近に設置してあります払戻機にて返金を行ってください。

担当：医事課



認定看護師の活躍

～乳がん看護認定看護師～

乳がん罹患率は年々増加してきており、女性の9人に1人が乳がんと診断されると言われています。30代後半から増加し、40代後半から50代前半でピークを迎えます。近年は、20歳から30代にかけての乳がんの罹患も増えてきています。他のがんと比べて罹患年齢が若いため、これから結婚・出産を迎える方、子育て中の方、社会において重要な役割を担っている方など、さまざまな背景を持った患者さんがいます。

乳がんの治療には、手術や化学療法、放射線療法、ホルモン療法があります。これらの治療により乳房の変形や脱毛など外見の変化を伴うこともあり、身体面や精神面における苦痛が強く現れることがあります。そのため女性として、社会での生活に悩みを抱く患者



さんも少なくありません。このような中、乳がん看護に対する専門的知識やケアの必要性を感じたため、2019年度に乳がん看護認定看護師の資格を取得しました。

現在は乳腺外来と4階西病棟で勤務しています。確定診断前の生検から立ち会い、早期より患者さんと関わることで、少しでも話しやすい関係性が築けるよう努めています。そして、告知や治療方針決定時には、患者さんやご

家族の乳がんに対する思いを聴きながら、患者さんがご自身にあった治療を自ら選択できるような援助を行っています。また、社会の中で自分らしく生き生きと暮らすことができるよう、アピランス（外見）ケアも実施しています。乳がん治療は5～10年と長期にわたることがあります。治療に対する気持ちの変化や再発に対する不安、副作用症状による苦痛を抱かれている患者さんもいます。外来から患者さん一人ひとりとお会いし、思いを傾聴したり副作用症状を軽減させる方法を助言したりしながら、治療が最後まで完遂できるように支援しています。

患者さんがこの先「**乳がんと共に生きていける**」ようサポートしていきたいと考えておりますので、いつでもお気軽にご相談ください。

〔連絡先〕 桐生厚生総合病院 がん相談支援センター

〔電話〕 0277-44-7165

〔メール〕 renkei01@kosei-hospital.kiryu.gunma.jp

〔時間〕 8:45～17:30（月曜日～金曜日、土・日・祝日・年末年始は除く）

（※外来診療担当医表はホームページ内で公開していますので省略いたしました。）